

令和5年5月定例記者会見要旨

令和5年5月25日（木）

冒頭コメント

皆さん、こんにちは。大分市長の足立信也です。今日から定例の記者会見ということで、よろしく申し上げます。

今日の発表項目は2つありますが、その前に、冒頭2点申し上げたいことがあります。それはマイナンバーカードの公金受取口座誤登録と令和5年5月15日付の人事異動についてです。

マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について、さまざまな報道を見ましたが、認識が各社でそれぞれ違うのかなという感じがしましたので、まずはワンボイスで経過をしっかりと正確に理解してもらう必要があると思いますので申し上げたいと思います。

5月23日にデジタル庁の河野大臣が記者会見で発表したマイナンバーカードの公金受取口座誤登録問題についてですが、当初は6自治体11件という話でした。この中に大分市の案件2件も入っています。昨日、皆さんに投げ込みを行いましたので、詳細に御存じと思いますが、1回目の来庁時に、健康保険証として利用する手続きなどを行い、2回目の来庁時に公金受取口座を登録しようとしたら誤登録が判明して、その場で謝罪して情報を修正したという状況です。それが昨年11月です。そこですぐにデジタル庁に報告して、デジタル庁から原因の解明と今後の対応についても話を聞いています。

これは結論から言うと、デジタル庁の判断では、外部委託しているところの支援員ですか、ログアウトせずに次の人の登録手続きをしたということです。ちょっと信じがたいのですが、ログアウトしなければ次に行けないことになっているのが当然だと思うし、そういう注意もしてあるのですが、ログアウトしないで次の人の手続きを行ったことが原因ということです。

これは、外部委託した支援員個人のミスという問題であるという結論で、個別の案件で、人的エラーなのでということで、特に公表はしないというデジタル庁の姿勢です。

ところが、当初6自治体11件だったのが、いわき市が「私の市でも1件ありました」という報告がありました。それを受けて、私のほうで、これは今までデジタル庁に報告していない自治体が次々に手を挙げてくるのではないかという予測が立ちまして、かつ、今まで黙っていたと捉えられる可能性があるので、デジタル庁に問い合わせてもらって、デジタル庁としては、自治体名は公表しないという姿勢だったのですが、大分市はそのような懸念が生じるので公表してもいいかという相談をしました。公開してもよいということになり、昨日、公開するようにしたという流れです。

1回目と2回目の間に期間があったのですが、幸いなことにこの間実際的な被害が生じたということは、当局の部局の調べではないようです。その場で直ちに謝罪して修正できたということで、迅速な対応ができたのだらうと思います。

デジタル庁から全ての登録状況の確認作業を行うという発表がありました。指示があればそれにのっとって対応したいと思いますが、私としては、全ての登録状況について確認作業を行うことが果たしてできるのかどうか、ちょっと疑問がありますが確認作業を行うということです。

今のところ、マイナンバーカードと公金受取口座のみを、一対一対応なので、今の時点であれば見つかる可能性はあると思いますが、今後、口座がひもづけられると、それもまた難しいこと

だろうと思います。完全な個人情報ですから、市側から調べるということも実際上できないことになりますので、何ができるかというのは指示を待ちたいと思います。

11月に人為的な支援ミスというか、ログアウトしないで次に行ってしまったという事態がありました。人間というのは、間違いを犯すのが人間である。「To err is human」ということです。こういうミスは起こり得るから、それを未然に防ぐような仕組みをつくるのがシステム開発と捉えています。

次に、令和5年5月15日付人事異動についてです。課長級以下の職員を対象とした骨格人事は4月1日で行っていたため、今回の肉付け人事、5月15日の異動は206名となっています。4月の異動と合わせると1,467名で昨年度と同程度です。

退職に伴い空席となっていた部長ポストの企画部長、財務部長、市民部長、子どもすこやか部長、環境部長、土木建築部長、教育部長、上下水道部長については、これまで副市長、教育長、上下水道事業管理者の事務取扱としていましたが、今回の人事異動で新たに8名を配置しました。

今回の人事異動につきましては、私はマニフェストで掲げた「ひとを守る」「ひとを育む」「ひとを支える」「ひとを豊かに」「ひとを元気に」を柱とする各種施策、特に、私が四つのプロジェクトとして重点項目と考えている施策、具体的には、まず、新環境センター整備計画に合わせて余熱利用施設から得られる発電電力の有効利用・活用。二つ目は、医療・介護情報のネットワークの構築。これはモデル事業的になるかもしれませんが最新の取組だと思います。三つ目は、都市型スポーツ、アーバンスポーツ施設の整備。四つ目は、(仮称)生命と宇宙の科学館の設置。この4項目を庁内横断的に取り組んでいくため、企画部に政策調整を担当する審議監1名と、市長室にこれを補佐する参事補1名を配置し、業務を円滑に執行できるように体制の構築を図りました。

また、新型コロナウイルス感染症対応での課題を踏まえて、保健所における健康危機管理体制確保のため、保健統括担当として総合的なマネジメントを担う保健師——これは次長級です——を配置するとともに、アフターコロナを見据え、観光分野において新たな魅力を創造し国内外へ発信するため、商工労働観光部に観光振興促進担当——これも次長級です——を配置しました。

さらに、女性職員については、部長級1名、次長級3名、課長級4名、参事級10名を新たに登用し、参事級以上の管理職に占める女性の割合は、過去最高の17.9%となっています。

今回の人事異動では、適材適所の人材登用を行うことにより、実行力のある組織体制が整ったと考えています。この新体制の下、私が掲げました公約の実現はもとより、この大分市が抱える様々な課題の解決に向けて市政運営に臨んでまいりたいと考えています。

1 発表項目

《1. 令和5年度6月補正予算の編成にあたって》

そこで、1点目の「令和5年度6月補正予算の編成にあたって」についてです。

令和5年第2回大分市議会定例会が6月26日に開催される予定となっています。それに向けて、私にとって初めての予算編成を現在行っているところです。詳細については、議会のこともありますし、今は詰めの段階ですので、次回の定例記者会見において発表する予定です。

当初予算は、経常的経費を中心にした骨格予算でしたので、肉付け予算では、新規事業や政策的経費、投資的経費を中心に編成することとしています。本市では、歳入の根幹をなす市税収入については、社会経済活動の正常化が進んでおり、令和5年度予算では、前年度に比較して増加を見込んでいますが、歳出については、少子高齢化の進展に伴って扶助費など社会保障関係経費が増加しています。それに加えて、新たな施設整備等に伴う投資的経費の増加も見込まれています。こうした状況ではありますが、本市が市民の皆さんに自信を持っていただける地域となるよう、ひとを真ん中においた5つのまちづくりを柱とし、公約に掲げた施策について、可能な限り予算に盛り込んでまいりたいという方針で臨んでいます。

まず、「ひとを守る」では、自然災害や感染症などのリスクをあらゆる角度から想定し、医療と介護・福祉、そして、災害対策等を充実させることとしております。引き続き、ワクチン接種など新型コロナウイルス感染症対策を行うほか、南海トラフ地震などの大規模災害への備えも進めてまいりたいと考えています。

2番目の「ひとを育む」では、少子化、人口減を食い止め、可能な限り遅らせるという意味合いも込めて、安心して子育てができるまち、そして、ずっと住み続けたいまち、立場の弱い方に優しいまちを目指したいと思っております。少子化対策は最優先の課題と私自身認識してまいり、現在、国においても様々な施策が議論されておりますが、本市、大分市では実現可能なものについて、可能な限り国に先行して実施できるよう準備を進めているところです。

3番目の「ひとを支える」では、お互いが支え合って暮らすまち、人材育成によるマンパワー強化で相談機能を高め、市民生活を支えるとともに、職員一丸となってスムーズに流れるまちづくりを運営することとしており、あらゆる人が社会や地域で活躍できるよう施策を推進いたします。また、行政においては、行政評価の手法の見直しやデジタル技術の活用を進めて、住民の利便性の向上と業務効率化を図ります。

4番目の「ひとを豊かに」では、豊かさを追求するための経済政策で新たなポテンシャルを掘り起こして、生きがい、やりがい、働きがいを持って住み続けられる持続可能な都市環境を目指します。水素エネルギーの活用や省エネ対策に取り組むほか、若手起業家を支援するなど地域経済の振興にも取り組んでまいります。特に、新産都企業群での脱炭素の取組、これは大分市が全国的にも脱炭素の取組が遅れていると言われておりますけれども、この新産都にある工場群を中心に新たな価値観に臨めるよう、脱炭素に取り組んでいきたいと思っております。

最後の「ひとを元気に」では、子供たちが安心して学び、大人が生き生きと輝く、明るい未来が描ける魅力的なまちづくりを進め、「one team OITA」で、ひとを元気に、まちを元気にしてまいりたいと考えています。そのため、新たな観光施策の推進や若者の活躍の場となるスポーツイベントの開催などにより「おおいた」の魅力を創造し、発信してまいります。このほか、食料品や光熱水費など物価上昇が継続しており、市民や事業者の多くが厳しい状況にあることから、国の地方創生臨時交付金を活用し、生活者支援や事業者支援にも取り組んでまいります。

こうした取組を全て合わせますと、肉付け予算の事業費は100億円を超える見込みとなっております。本市の将来を見据えて、多様化、複雑化する市民ニーズに的確に対応し、質の高い行政サービスが安定的に提供できるよう予算編成を進めたいと思っております。

《 2. 大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～6月1日公開！ 》

2点目の項目は「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～」についてです。

おおいたの記憶というタイトルで6月1日に公開予定です。

まず、この大分市デジタルアーカイブは、市内の有形無形の文化財をはじめ、自然、景観などの文化資源を一元的に管理するデータベースと、それらを公開するウェブサイトです。このようなサイトの運用は県内の自治体では初めてとなります。公開時点で、美術館、図書館、歴史資料館の約1,500件の収蔵資料や指定文化財などを閲覧することができます。今後も随時、地域の文化資源など新たなコンテンツを追加していく予定です。

2点目、事業の目的についてです。この大分市デジタルアーカイブの運用によって、市内に残る貴重な文化資源を次世代へ継承してだけでなく、市民の皆さんをはじめ、全国の方々に利用していただくことによって、観光や教育、産業など様々な分野で活用されていくことを目的としています。

3点目、大分市デジタルアーカイブの特徴についてです。アーカイブ内の資料は、フリーワード検索や地域、時代などの方法でパソコンやスマートフォンから検索・閲覧することができます。主なコンテンツを紹介しますと、まず、「デジタル企画展」では、美術館、図書館、歴史資料館の展示と連動した資料を閲覧することができます。「大分の今昔」では、古い写真と今の風景を比較して見るすることができます。「御城下絵図の世界」では、これまで全体展示が難しかった30メートルの絵巻物を人々の表情まで確認できる高画質で閲覧することができます。「3Dミュージアム」では、大友宗麟公が所持していた大砲である「国崩し」などの文化資源を3D撮影して、砲の中までのぞき込むこともできます。通常の展示では見ることのできない角度や距離から、360度自由な視点で閲覧することができます。

4点目、活用事例としましては、小中学校などの学校教育における教材や体験学習への活用、古絵図や古写真を使ったまち歩きイベント、オープンデータを用いた民間企業によるロゴの作成などでの活用も想定しています。

今後もさらなる充実を予定していますが、まずは大分市デジタルアーカイブを多くの皆様に知っていただき、様々な場面で利用していただくことで、大分市の貴重な文化資源の魅力に触れていただければと思います。

では、ここで担当課から「大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～」の詳細について説明させます。

～担当課による詳細説明（略）～

≪その他 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の支給について≫

続いて、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の支給についてです。

この給付金は、食費等の物価高騰に直面し、その影響を特に受ける低所得の子育て世帯に対して、児童1人当たり5万円を支給するものです。

支給方法については、まず（1）の申請不要のプッシュ型支給として、ひとり親世帯と、ひとり親世帯以外のその他世帯、合わせて約6,700世帯に対し、総額5億7,000万円を、5月31日に各口座へ振り込む予定です。対象世帯には5月16日に支給に関する案内を送付しています。

また、（2）の申請が必要な家計急変世帯などへの支給については、6月1日から受付窓口を市役所本庁舎9階に開設し、支給申請の受け付けを開始します。申請受理後は、審査の上、随時

振込を行う予定です。受付期限は来年、令和6年2月29日までとなっています。

給付金に関して不明な点などがありましたら、コールセンターまでお問い合わせください。

《その他 高崎山自然動物園《B群》「ゴロー」の第1位「就任式」を行います》

もう一つ、高崎山自然動物園のB群ゴローの第1位就任式を、5月26日金曜日の午後2時から行います。

高崎山で初めて雌で群れの第1位となったヤケイについて、ゴローとの関係性が明らかにゴローのほうが優位になっているため、ゴローをB群第19代第1位と認定する就任式となります。

2 質疑応答

《2. 大分市デジタルアーカイブ～おおいたの記憶～6月1日公開！》

記者 例えば、伝統芸能などの無形文化財は動画掲載の方法によると思いますが、どのような形で行うのですか。また、動画掲載の方法によるのであれば、その撮影は既に行っているのか、それともこれから進めていくのか、教えていただけますか。

市長 文化財課からいいですか。

担当課 公開時点では有形の文化財が多くなっていますが、無形の文化財もこれから集めていく予定です。今は写真がベースとなっていますが、これまで大分市が撮影した映像や一般の方がお持ちの動画等も今後収集し、デジタルとして可能なものは掲載していきたいと考えています。また、音声資料などというものも収集していきたいと考えています。例えばオーラルヒストリーについても新たな聞き取りを行いながら追加していくということも今後の展開として考えています。

《1. 令和5年度6月補正予算の編成にあたって》

記者 6月の補正予算が今編成中ということで、五つの柱は理解しましたが、具体的に目玉となる事業やぜひ取り組みたいことがあれば教えてください。

市長 これは議会への説明を経てからでない。今、提案に向けた編成作業の詰めの段階でもありますし、その後、議会への説明を経ないと正確には言えないので。僕のマニフェストの中で、50項目ぐらい書く中で、最優先に取り組むべき少子化対策を書いています。それには最優先で取り組みたいと思います。当然これは一遍にできる話ではないのは重々分かっていますが、できるところから全てに手をつけていきたい、その気持ちで今、編成作業を進めております。そこに五つある中で、それは計画的に補正予算に形が現れるようにしたいと思っています。

記者 今日、記事になるかなというところでですね。

市長 これは言うのを強く止められているのですよ。

《1. 令和5年度6月補正予算の編成にあたって》

記者 先ほど、肉付け予算の事業費が100億円超という話があったかと思うのですが、当初予算と合わせると過去最大規模になる見込みということでよいですか。

市長 はい、そうなると思います。削るべきところもかなりありますが、プラスマイナスで最

大規模になると思います。

先ほど市税の収入の増加が見込まれるということも挙げましたが、やはり新型コロナウイルス感染症が一段落ついたような状況の中で、市民活動もかなり活発になってくるといふ予測が立ちますし、それから新たな分野への取組等も入れて、ここは予算化ができるのではないかと私自身は考えているところです。

今、新型コロナのことに触れましたので申し上げますが、定点観測ではインフルエンザのほうが多くなっている状況ですが、市内の学級閉鎖は既に全て解除されています。

《冒頭コメント マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について》

記者 昨日の発表では2件のミスが大分市であって、ログアウトせずに次の人の手続をしてしまったということでしたが、その次の人の把握ができていないので、謝罪や説明ができていないと担当課から聞きました。これについての受け止めと対応は。

市長 次の人？

記者 自分の口座を登録されてしまった人のことです。

市長 その事実関係は担当課から説明したほうが良いと思います。どの人に2回目発覚したかという話になるでしょうから。

担当課 口座をひもづけられてしまった方のことですよね。

記者 そうですね。

担当課 ひもづけられてしまった方の口座のデータは全てデジタル庁で管理されていますので、大分市でそれを把握することができない状況です。登録エラーになった方は間違っているところを自身で確認できたのですが、ひもづけられてしまった方のデータをデジタル庁からもらうことができないので把握できていないため、その方とはお話ができていない状況です。

記者 実際は口座が登録されていないのに、登録されていると思い込んでいるかもしれない状況になっているということですか。

担当課 そうですね。基本的にはログインして、全ての情報をひもづけていく過程になりますので、間違っただけで登録されたとしても、その方が最初からログインして自分の口座登録まで行かないと、その状況は把握できないことになります。現状、恐らく口座のひもづけができてないと、もう一度登録し直されている可能性は高いのではないかと思います。

記者 登録できていない可能性がある人に対しての周知啓発や再発防止策を講じる必要はないでしょうか。

担当課 今回のことを受けて、デジタル庁が口座のひもづけに関して総点検するということになっています。実際にどのような点検が行われるかはまだ詳細に出ていませんので、その状況を見ながら対応していきたいと思います。

記者 分かりました。

市長 こちらでは分からないということですね。

担当課 はい、こちらでは把握できません。

市長 どうやって全件チェックするのかよく分からないですね。本当に可能なのかどうか。

《冒頭コメント マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について》

- 記者 こういったケースが起きた場合には、記者会見や記者レクを行っていただいたほうがよいと思います。遅い時間でも我々記者は勤務していますので。
- 市長 まさに今朝もその話をしたところで、昨日は投げ込みの形になりましたが、本来は記者会見をして、実際に疑問点をぶつけてもらったほうが、統一した理解ができてよかったのではないかという話はしました。ただ、今日の定例会見において、ワンボイスでしっかり説明するという方法を選択したということです。昨日も今日もやればよかったのかもしれないのですが。
- 記者 私どもは、昨年11月に分かっていたのに隠していたのかという、最初に疑念が起きたものですから、そういったものを解消するためにも記者会見等をお願いします。
- 市長 はい、おっしゃるとおりです。その疑念が起きるだろうと思って、これは公表しようということで、公表する段階でもデジタル庁と相談して、公表してよいという了解を得る段階が昨日、おとといという感じでした。たまたま今日、定例会見があったので、その場で話すのが一番はっきりするのではないかという判断を選択したということです。
- 記者 記者クラブとしても、幹事社を通じて、これは会見してほしいと言うようにしたいと思いますので、今後はよろしくをお願いします。
- 市長 はい。

《冒頭コメント マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について》

- 記者 今日、松野官房長官は9自治体14件で誤登録の問題を確認したと発表しましたが、このようなことが明らかになってきている中、マイナンバー制度に対して考えるところがあれば、教えてください。
- 市長 まず数の問題を言われました。最初は6自治体11件で、これらは恐らく事案が生じるたびにデジタル庁に連絡を取っていたところだろうと認識しています。それが表に出て、いわき市が自ら申し出た影響で、世の中がそういう流れになって、次々と出てきたのだらうと思います。
- これは起こり得ることだと思えます。それを予防する、未然にはじき出すようなシステムをつくるのが本来正しいと認識しています。マイナンバー自体のことですが、これは私自身、国会議員時代も推進する考えでしたし、いろいろな問題があるでしょうが、完全に出来上がってから進むのでは、むしろいいものがない。進めながら問題点があったらそれをクリアしていくという形のほうが、より正確なものができると思っています。
- 先進国の中で、所得捕捉すらできないのがこの国です。本当に生活困窮している方々を、本来の意味で把握できるのか等々も含めて、マイナンバーは推進すべきということで私はずっと動いていました。完全だと思っても、いずれエラーは必ず出てくるので、それを待っていては間に合わないと思っています。

《冒頭コメント マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について》

- 記者 マイナンバーカードの関連で、今回発表された二人以外に、自分は大丈夫かと心配に思う人もいると思うのですが、市としてはどのように対応するのですか。

市長 先ほどの話に尽きると思いますが、デジタル庁が一元的に情報管理していて、全数点検を行うと言っている。そのノウハウについて、市ができることの指示があるかもしれません。デジタル庁がどのようなやり方で点検をして、それに市がどのように関係していくのかが分からないと、市が自ら動いてというのはできないのではないかと思います。

担当課 現在マイナンバーカードをお持ちで、既に口座登録まで終わっている方は、市民課や支所の窓口でカードをお持ちいただいて一緒に確認できますし、御自身でマイナポータルにログインして確認することもできます。

《その他 ChatGPTについて》

記者 今、全国の自治体でChatGPTについて議論になっている中で、大分市としてはどのように考えているかを教えてください。

市長 いろいろなメディアからアンケートが来ており、禁止する・使用する・検討している・検討するというような選択肢があります。そのいずれでもなく、検討するかどうかを検討するという感じではないでしょうか。

利用された方の話を聞くのですが、これは統計上一番可能性の高いことを選んでくる仕組みだと思います。過去のことについてどうだったかというのは正しいと思いますが、近い将来、遠い将来を予測するのは苦手なのかなという気がしていますから、利用の仕方、どの部分が正しく利用できるか等について、一部自治体で利用を始めたということも聞いていますが、どの部分が正確で、どの部分が当てにならないのかということも含めて見てみないと分からないのではないかと思います。

《その他 就任1カ月を経過しての所感》

記者 人事異動も終わり、予算編成も進む中、就任1カ月を経過しての所感を教えてください。

市長 まず、人事異動を行うに当たって、合計61人と面談しました。現状の問題意識や自分の残されたキャリアで何をやりたいかという話を一通り聞いて、それを反映させたつもりです。大型連休前に内々示をするべきではないかという意見もあったのですが、そうすると、職員の連休がなくなってしまう可能性があるので、連休が明けてから内々示といたしますか、内示の前の段階をすることにしました。

面談のよしあしを自分では言うのは難しいですが、気持ちは受け止めましたし、ある程度反映できたのではないかと思います。その新しい人事に伴って予算を組むわけですから、その分野に関して理解されている方が適材適所で就いていただいたから前向きに予算編成ができつつあるのではないかと考えています。

また、5月8日からコロナウイルス感染症が5類になって、皆さん、4年ぶり5年ぶりの会ということで、相当盛り上がりといいますか、心が躍る感じのものがああります。それを受けて私も様々なところに呼ばれるのですが、こちらとしては掛け持ちで身もつらいところがあるのですが、今はやはり、3年間以上我慢してきて、次に向けて頑張りたいという思いがよく分かるので、私のつらさは置いておいて、できるだけ出席するようにしているところです。皆さん、非常に前向きに今の状況を捉えているように感じています。

全体の忙しき等々については、私にとっては想定内です。

記者 面談された61人というのはどのような立場の職員ですか。

市長 幹部人事に関する職員です。自分のキャリアの終盤に向けてと言いましたが、残る年数が限られている中で、今のうちに何をやりたいということがあるでしょうから。若いうちは様々なことを経験するのがいいと思いますが、詰めの段階になってくると、その人の意向をできるだけ生かしたいという思いから、幹部クラスの61人と面談しました。

記者 就任前後で、市政や市の印象・見方は変わりましたか。

市長 18年間、全県下、可能な限り回ってきましたし、平日は国会、土日は大分という生活でしたから、違った印象はそれほどないです。ただ、全県下と違って大分市ですから、実際に身近で見たり感じたりすることができる部分は再認識しているという感じです。医者の不養生と言われぬように体調には気をつけてくださいとよく言われます。皆さん気を遣って言ってくださいますが、それはちょっと意味合いが違って、体調維持に一番重要なのは休養だと私は思っていますが、普通の人以上に働いても、きちんと健康管理できるのが医者だと思われているところがあって、そこは認識の大間違いです。ハードなスケジュールが続けば、判断を誤る危険性があると思っています。適度に休養を取りながら、世の中、働き方改革で、働き甲斐のある生き方をすべきだと思っていますので、そこはこれからやっていきたい。今は、皆さんが3年ぶり4年ぶりの気持ちを表に出したいというのはよく分かりますから、それにはお付き合いしたいと思っていますところです。

《冒頭コメント マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について》

記者 今回は損害が確認されていなかったり、迅速に対応できていたりした部分はありますが、二人の市民の方に不安を与えたということをどのように受け止めていますか。

市長 間違っていたら訂正してください。

僕は、当事者の方にとっては2回目に行って、あっと思ったわけですね。すぐその場で対応してもらっていて、それは最初びっくりされたでしょうけれども、対応としては早くできているのではないかと思います。不安はむしろ、こういうことがあって、それを隠しているのではないかというような不安がむしろ不安を招いているような気がします。だから事実関係をきちんとワンボイスでと言ったのはそういう意味合いです。

担当からまた発言を求めますが、その当事者の方たちがどういう不安を抱いたかどうかという感触ですね。その後はまだ起きていないという事実、バージョンアップもされたという事実を考えると、私自身は、ひもづけに関しては、これ以上不安を生じさせる事柄はあまりないのではないかと感じています。

どうですかね、当事者のことが分かりますか。

担当課 当事者の方については、なぜそうなったのかという経緯の説明などを求められましたが、その点説明して了承していただきました。誤った口座についてもすぐに修正をさせていただいたので、一応了解をいただいています。

今回の原因については、前の人がログアウトをできていない状態で次の人に入ったというあくまで人為的なエラーが原因というのがデジタル庁の見解です。

《冒頭コメント マイナンバーカードの公金受取口座誤登録について》

記者 こうした問題が全国的に明らかになっている中で、大分市民も含め一般の方は、マイナンバーカードへの不安が強くなっているのではないかと思います。そのような方に、市長から言葉をかけていただければと思います。

市長 今、集約されましたが、それも、ここにいるメディアの方々に、みんながそうだとは限らないと思っています。人によって認識がいろいろ違うのではないかと思います。それはそれとして、人口減少社会の中、時代がIT化、DX等々進む中で、マイナンバーによる統一化、一元化というのは、これはもう十何年前から必要だという主張は変わりませんし、それに対して不安を抱えている方々がいらっしゃるとすれば、これはデジタル化等々、ITもそうですが、日々バージョンアップして、スキルアップも加えて、研ぎ澄まされてよくなるものだということが本来の姿だと思います。エラーはエラーで最小限にとどめなければなりません、それによってさらにセキュリティーが上がっていくという認識で、そしてまた、そういう過程をたどるものだというふうに捉えて、ぜひマイナンバーカードへのひもづけ、一元化等々は行っていただきたいということをまず申し上げたいですね。

記者 システムとしては改善していくべきですが、問題がなくなるまで市民側が不利益を受け続けなければならないのか。それに対して、理解して我慢しろとおっしゃったのかもしれないのですが、そうではないなら何かないですかという問いかけだったかと思ったのですが、どうですか。今はシステムの説明に終始した感じがありました。

市長 感情的な部分で訴えることを期待されていると思いますが、私自身の考え方では、なかなかそのように言い切れないところがあります。“万が一にも生じない”と言ったら、ほとんどの人がそれは起こらないと思いますが、“0.01%の可能性はある”と言うと、そんなにあるのかと思う人がいます。これは同じ意味なのですが、それぐらいの違いが人によってあると私は思います。100%はないというのも、私も科学者の端くれとして当然だと思っているので、それを気持ちの部分で補うというか、皆さんを同じ方向に向けるというのは必要かもしれません。必要かもしれませんが、なかなか私自身はそういう表現ができないもので。

市長 どうもありがとうございました。次回の会見に期待をという部分が多かったですが、今後ともよろしくお願いします。